東大、京大、国公立医学部合格のために中学時代に心がけるべき学習法

ハードな中学受験を乗り越えて、中高一貫校に合格した新中1生は、大きな期待に胸を膨らませていることでしょう。これから最難関大学合格という目標に向かって、新たな学びをスタートさせるわけですが、中学時代にはどのような点に気をつけて、勉強を進める必要があるのでしょうか。東大、京大、国公立医学部に高い合格実績をあげている「駿台中学部」の先生方にアドバイスしていただきました。

保護者主導の受け身の学習から自立学習への転換を図る

——新中1生が、スムーズに学びのスタートダッシュを切るために、重要なポイントになるのは、どんな点でしょうか。

柳井　まずは中学校に入学するまでの準備期間を有効に活用することです。中学受験を終えて、ほっと一息つきたいところでしょうが、中学受験突破がゴールではありません。ここからが始まりと捉えて、これまで頑張って培ってきた学習習慣を維持できるように心がけてください。毎日、少しずつでもいいので、机に向かい、中学校の学びに向けて、とくに英語と数学の予習に取り組むようにしましょう。というのも、中高一貫校の学習進度は速く、4月に学校がスタートしたかと思いきや、あっという間に、たくさんの内容を教わり、多くの課題をこなさなければならなくなるのです。入学前にしばらく勉強を休んで、入学してからいきなりハードな勉強がスタートして、混乱している生徒を、毎年見かけますので、注意してほしいところです。駿台中学部では、新中1生向けに、準備講座など、予習ができる講座を用意していますから、ぜひ活用してほしいと思います。

山内　これまで、合格に向けて忙しい時間を過ごしてきたと思います。次は大学入試に向けた準備を進めるわけですが、「勉強の楽しさ」「問題が解ける喜び」を感じる勉強が進められるかどうかが、大きなポイントになります。それを感じるためには、問題に取り組み、じっくり考えることです。正解か不正解かを確認するだけの作業に終わってしまったのでは、「あっ、そうだったのか」という発見や感動もなく、勉強の面白みを感じることもなくなってしまいます。

大西　中学受験は、どちらかというと保護者主導で、受け身の勉強が中心だったと思われます。中高一貫校に入学して、難関大学をめざすからには、できるだけ早めに、勉強方法も自分で考えて工夫するなど、自立学習への転換を図ることが肝心です。また、勉強を進める際には、単なる解法の暗記に頼るのではなく、「なぜそうなるのか」、原理・原則を理解するように心がけましょう。間違った問題はそのままにせず、「なぜ間違ったのか」、自己分析することも大切です。そうした勉強の姿勢の転換も、重要なポイントになります。

山本　大西先生が言われた原理・原則や基本を大事にするということは、難しく感じられるかもしれませんが、実はそうではありません。たとえば、これまでの中学受験で勉強してきた算数や理科では、小学生対象に説明することが難しいため、「そういうものだと覚えよう」「手順そのものを覚えよう」と言わざるを得ない部分も多かったように思います。中学校以降の学習では、まさに「ではなぜそうなるのか」「その手順を探る意味は何か」というところから掘り下げていきます。生徒の皆さんの多くが、「今まで良く分からずに使っていた公式や手順」から、解放されることを意味してもいるのです。もしかしたら「中学受験成功」のために、封印してきたかもしれない「なぜ?」という疑問について、今後はその疑問を前面に出して学習できるようになることが、中学受験生から本当の中学生になる第一歩と言えるのかもしれません。そうした学びの転換を、駿台中学部の「中学準備講座」さらには「アカデミック数学特講」などで味わってください。

「なぜ?」と問い続けられる環境を維持するように努める

——難関大学合格に向けて、中学3年間で身につけるべき力とは何でしょうか。

山内　学校や塾の授業を受けて、「分かったつもり」で終わらせてはいけません。必ず自宅に帰ってから、もう一度解き直して、自力で解けるのか確認する習慣を身につけましょう。分からない問題があったら、そのまま放っておかずに、先生に質問するなどして、解決を図ることも重要です。駿台中学部では、先生に質問するように働きかけるとともに、家庭でも質問できるように、オンライン質問システム「manabo」を導入しており、生徒たちは積極的に活用しています。

柳井　学校や塾で学習し、学力のアドバンテージを得ていくことは、とても大事なのですが、それと同じくらい重要なのが「自分で勉強できる力」を身につけることで、将来の大学入試の合否を左右すると言っても過言ではありません。現状の自分の学力を分析して把握し、学習計画を立てて、考えながら勉強に取り組む力を、中学生のうちに身につけられた生徒は、すごく強いと感じています。とはいえ、いきなりは難しいことでもありますので、駿台中学部では、中1生に対してはまず「いつ、どこで、どうやって勉強することを習慣にしましょうか」と、自分自身で勉強の環境について考えてもらうところから始めています。

大西　中学校の3年間は、まずは基礎力の養成が肝要になります。応用・発展レベルに入る前に、しっかりと土台を固めておくことが大切です。先ほど申し上げた原理・原則の理解や、間違った理由の自己分析のほか、出題者に解法をきちんと説明できる記述力を養うことも、中学時代の課題になります。

山本　少し教科に踏み込んだ話をすると、数学では、初期の段階で難問を解けるようになる必要はまったくありません。数学の学習初期段階でも、難問はいくらでも作問できるのですが、早期に難問に触れることで数学嫌いになる危険性すらあります。それよりも、中学時代に重要になるのが、「数」に対する反応の正確性と速さです。数や文字式を自由自在に操れるようにしておけば、大学入試で真の難問に取り組むときに、「思考速度」を高く維持できるようになります。

多様化している受講形態を上手に活用してほしい

——新中1生に学びの意欲を高めてもらうために、有効になる方法をアドバイスしてください。

大西　自分の興味・関心に基づいて、どのような仕事に就きたいか→そのために何を学べば良いか→どの大学・学部で学べば良いかなど、将来の展望を考えてみるのもいいと思います。もちろん、現時点の将来展望にこだわる必要はなく、幅広い進路に対応できるように、基礎の習得をおろそかにせず、英数国を中心に全教科偏りなく勉強して、不得意科目を作らないようにしておきましょう。

山本　学びの意欲を高めるには、先ほども申し上げた「なぜ?」という問いに常に答えようとする姿勢を維持できるかどうか、そこに尽きると考えています。けれども、中学校生活が続くに従って、日々の生活に追われ、この感覚が徐々にすり減っていく危険性もあります。「考える」ことを止めるリスクが高まっていくのです。子どもが「なぜ?」と問い続けられる環境を維持することが、保護者の方々の大きな使命でもあります。今後、中高生が抱く疑問には、保護者が答えられないケースも増えていくと思われますから、私たちのような外部教育機関をうまく活用していただければと思います。

山内　分からないことを積み重ねないようにすることが、重要なポイントになります。もちろん、分からないことが出てくるのは当たり前ですが、それをそのままにしておくことが、つまずきの原因となり、ひいては勉強の意欲の低下につながっていきます。自分がしっかり理解できているのか、良く分かっていないのか、そこにアンテナを張り巡らして、勉強を進めてほしいと考えています。

多様化している受講形態を上手に活用してほしい

——まだしばらく「ウィズ・コロナ」の状況が続くと予想されますが、学習を進める上で注意すべき点があればお聞かせください。

山本　駿台中学部では、コロナ禍でも学習の歩みを遅滞させないように、工夫を凝らしています。授業の受講方法だけを見ても、来校によるライブ受講のほか、オンライン双方向生中継授業（担当講師・オンライン受講生間で、オンタイムで質問回答を求めることもあります）、さらに一部講座では収録講座の事後視聴など、多様な受講方法を用意しています。それによって、むしろコロナ禍以前のときよりも、効率的な学習を達成している生徒もたくさんいます。一方で、このように学習のチャンネルが増えたことで、それらのチャンネル間のコントロールが難しくなるという不安感も良く分かります。そこで、駿台中学部では、専門の教務スタッフが、とくに中学校低学年の段階では、生徒の学習状況を的確に把握し、「どうやって、各チャンネルを活用するのが良いのか」という相談に応じています。

大西　山本先生が言ったように、従来型の教室でのライブ授業だけでなく、多様な受講形態が可能になっているわけですから、それを学びの幅が広がったと捉えて、自分に合ったスタイルを活用することが重要です。その際、楽で便利だからという理由で選ばない ようにすることが肝心です。コロナ禍においても、変わらず大切なのは、克己心（自身の欲望や邪念を制し、甘えることなく、目標を目指して邁進しようとする強い気持ち）なのです。

山内　感染に注意しないといけない状況ですから、必然的に家で過ごす時間が増えます。ついダラダラと過ごしてしまいがちなので、オンオフの区別をつけることが大切です。「ながら勉強」では、時間をかけても効果があがらず、時間の無駄になってしまいます。きちんと計画を立てて、集中して勉強する時間と、ゆっくりする時間のメリハリをつけるようにしましょう。

柳井　「コロナ禍だから」と言っても、大学入試の状況は変わりません。ライバルたちが怠けているかというと、けっしてそんなことはありません。入試の出題範囲が狭くなったり、簡単になったり、日程に余裕ができたりすることもないのです。常に平常心を持って、真摯に勉強に取り組むことが、何よりも重要になると考えています。